

2021年度 決算説明会資料

- ※ 本資料に記載されている業績予想、並びに将来予測は、当社が入手可能な情報の正確性や完全性に
依拠していますが、その正確性、或いは完全性について、当社は何ら表明、及び保証するものではなく、
実際の業績は、様々な要因の変化により、記載されている業績予想、並びに将来予測とは異なる可能性が
あることをご承知おきください。
- ※ 本資料は百万円未満を切り捨てて表示してあります。

 中越パルプ工業株式会社





目次



I. 2021年度 連結決算概要

1. 連結業績概要	1
2. セグメント別損益	2
3. 連結営業利益増減内訳	3
4. 連結有形固定資産増減明細	4
5. 連結キャッシュ・フロー計算書	5

II. 2022年度 連結業績予想

1. 連結業績予想	6
2. 連結営業利益増減内訳(計画)	7

III. 中期経営計画2025 取組み状況

1. 概要	8
2. スケジュール進捗①②	9,10
3. 事業ポートフォリオ（売上高構成）	11
4. nanoforest実用化、高機能CNF研究開発の加速	12,13

IV. 参考資料

1. 連結業績推移	14
2. 連結自己資本利益率(R O E)推移	15
3. 連結有利子負債残高推移	16
4. 連結設備投資・減価償却費推移	17
5. 原燃料価格推移(対2009年度比較)	18



連結業績概要



(単位：百万円)

	2020年度	2021年度	増 減
売上高	81,938	90,104	+ 8,166
営業利益	▲347	2,352	+ 2,699
経常利益	▲319	3,077	+ 3,396
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲1,052	1,268	+ 2,320
自己資本利益率(ROE) (%)	▲2.2	2.6	+ 4.8
減価償却費	6,764	6,269	▲495
為替レート (円/US\$)	106.10	111.88	5.78円安
原油 (US\$/BBL)	42	75	33高
連結子会社数 (社)	8	8	±0
持分法適用会社数 (社)	6	6	±0

主な変動要因
紙：コロナ禍で停滞した前期からの市況回復 パルプ：世界的な市況回復と売価上昇
◇数量増による増益 ◇操業効率改善によるコストダウン ◇パルプ市況回復と売価上昇 ◆下期以降の原燃料価格上昇と円安





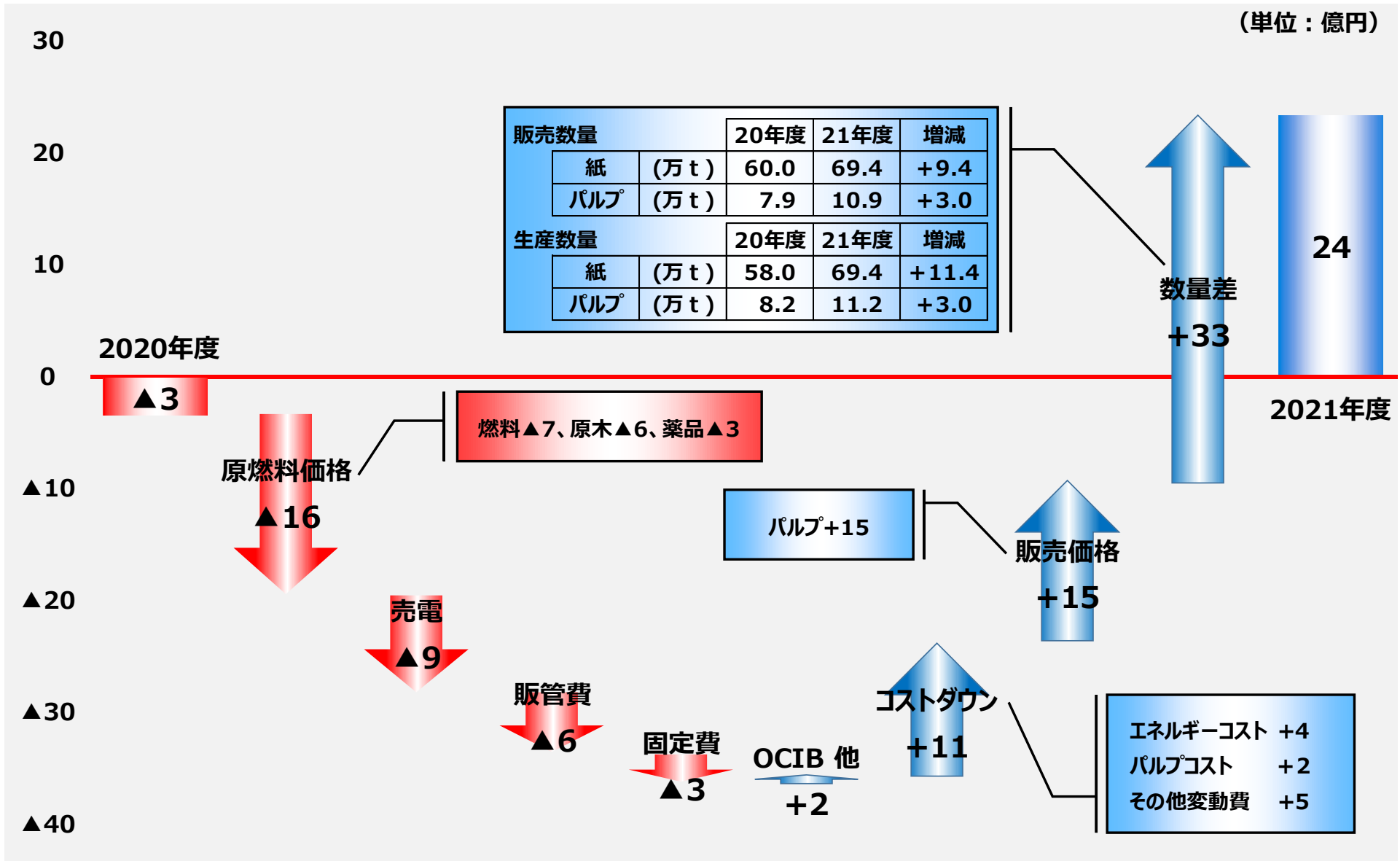
セグメント別損益



(単位：百万円)

		紙・パルプ 製造事業	発電事業	その他	調整額	合 計
2020年度	売 上 高	70,580	7,131	17,162	▲12,935	81,938
	セグメント 損 益	▲2,150	1,562	139	101	▲347
2021年度	売 上 高	79,159	6,450	19,179	▲14,684	90,104
	セグメント 損 益	1,301	717	246	88	2,352
増 減	売 上 高	+8,579	▲681	+2,017	▲1,749	+8,166
	セグメント 損 益	+3,451	▲845	+107	▲13	+2,699







連結有形固定資産増減明細



(単位：百万円)

	2021年3月末	増 加	減価償却	除却等	2022年3月末	増 減
中 越 パ ル プ	50,581	4,423	▲5,898	▲469	48,637	▲1,944
連 結 子 会 社	5,431	621	▲285	▲3	5,764	+333
連 結 調 整	▲1,719	▲13	19	-	▲1,713	+6
合 計	54,293	5,031	▲6,164	▲472	52,688	▲1,605

主なる増加の内訳

・高岡工場 4号ボイラー炉底水管更新	6 億円
・川内工場 6号ボイラー水冷壁更新	5 億円
・川内工場 新事務所新設	5 億円

設備投資額の推移

2019年度(実績)	6 0 億円
2020年度(実績)	4 9 億円
2021年度(実績)	5 5 億円
2022年度(計画)	6 5 億円



連結キャッシュ・フロー計算書



(単位：百万円)

	2020年度	2021年度	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,965	8,257	+2,292
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲3,898	▲3,150	+748
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,284	▲5,894	▲12,178
現金及び現金同等物残高	15,575	14,861	▲714

営業活動によるキャッシュ・フロー内訳（億円）

減価償却費 62、税金等調整前当期純利益 17 他

投資活動によるキャッシュ・フロー内訳（億円）

有形固定資産の取得▲38、長期貸付金の回収 6 他

財務活動によるキャッシュ・フロー内訳（億円）

長期借入金の減少▲37、短期借入金の減少▲18 他





連結業績予想



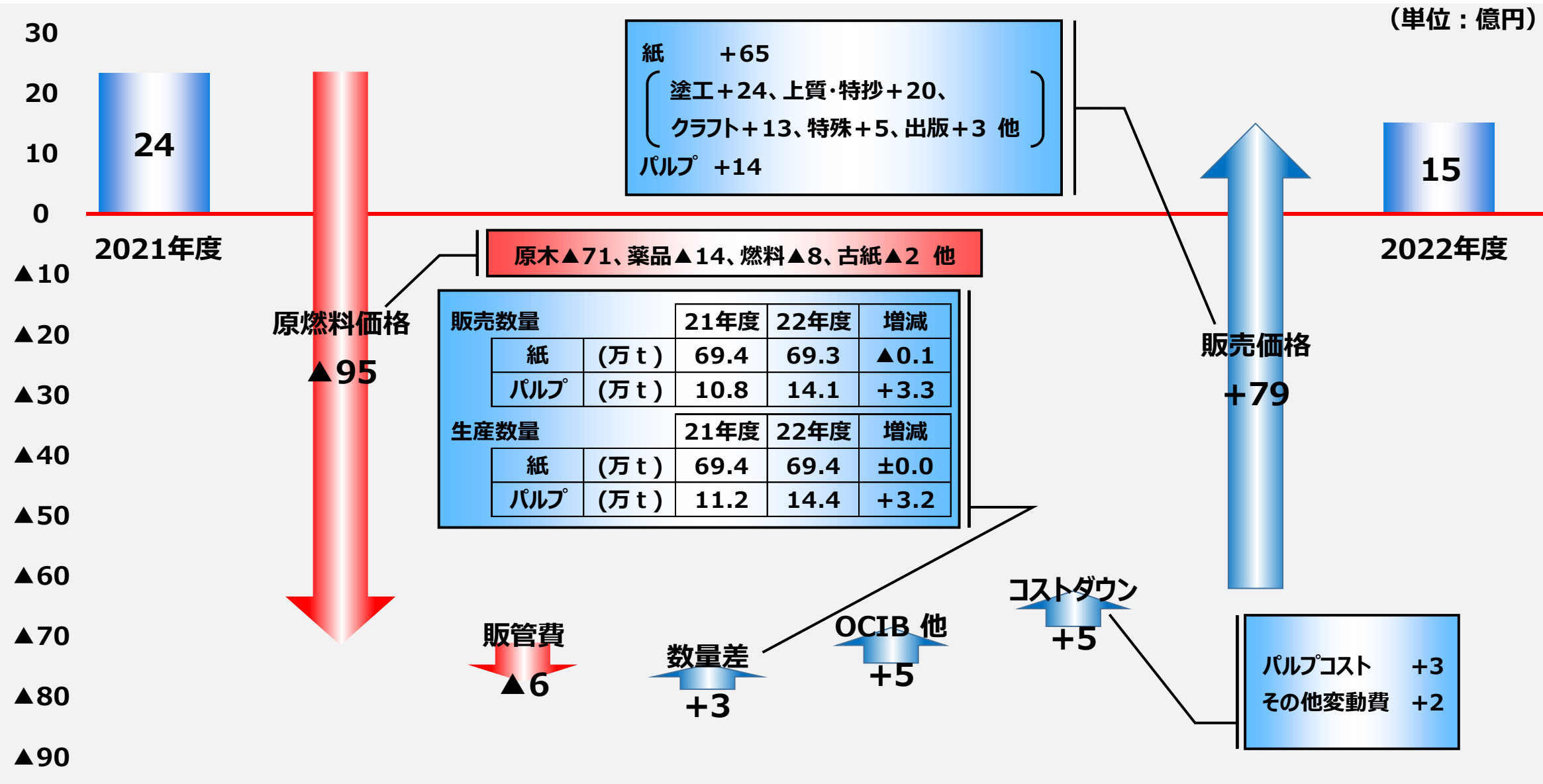
(単位：百万円)

	2021年度	2022年度	増 減	主な変動要因
売上高	90,104	101,000	+ 10,896	紙：[売価] 〈国内〉価格修正実施 〈輸出〉価格修正・円安による売価上昇 [数量]国内需要縮小を輸出でカバー パルプ：生産体制増強により増産増販 ◇価格修正、コストダウン、数量増(パルプ) ◆原燃料、薬品価格の急騰、円安
営業利益	2,352	1,500	▲852	
経常利益	3,077	1,700	▲1,377	
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,268	1,100	▲168	
自己資本利益率(ROE) (%)	2.6	2.2	▲0.4	
減価償却費	6,269	5,972	▲297	対US\$1円円安につき▲75百万円/年 1US\$/bbl高につき▲55百万円/年
為替レートの (円/US\$)	111.88	130.00	18.12円安	
原油 (US\$/bbl)	75	100	25高	
連結子会社数 (社)	8	8	±0	
持分法適用会社数 (社)	6	6	±0	





連結営業利益増減内訳(計画)





中期経営計画2025 取組み状況：概要



中期経営計画 2025

- ①既存事業の構造転換（紙に占めるグラフィック用紙の比率減 75→60%）
 - (1)紙パルプ事業の生産体制再構築
 - (2)グループ関係会社事業の選択と集中による収益力強化
- ②森林資源を活用した環境投資・環境ビジネス推進

ビジョン 2030

既存事業の発展・環境ビジネスの発展・イノベーションにより、森林資源の有効活用を通じた循環型社会の構築と持続可能な未来を実現する

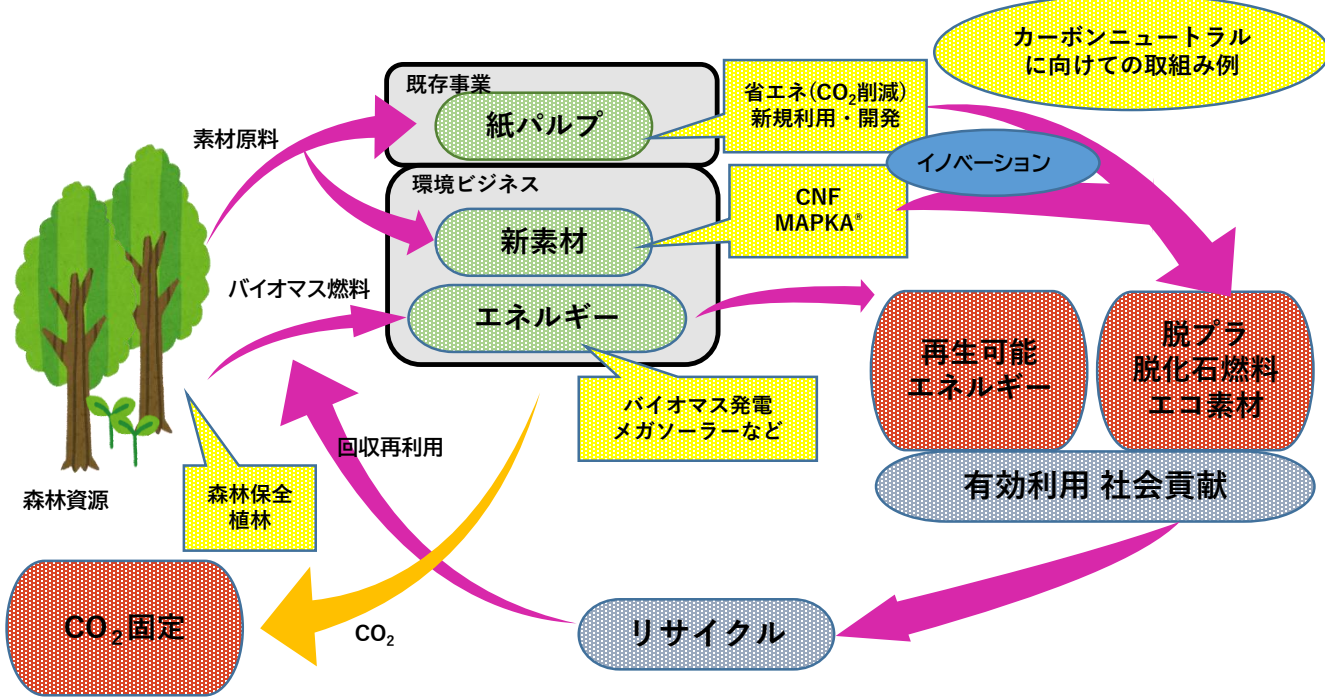
<収益目標と実績>

	2020年度 (実績)	2021年度 (実績)	2025年度 (目標)
営業利益	▲3億円	24億円	40億円
ROE	—	2.6%	5%以上

<2030年度 環境目標>

カーボンニュートラル社会の実現に向けて、製造工程における化石燃料由来のCO₂排出量を2030年度までに2013年度比50%削減する。

<循環型社会のイメージ>





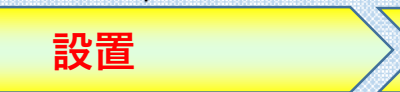
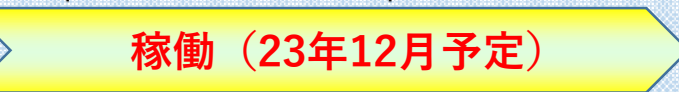
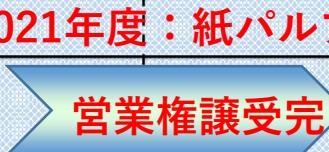
中期経営計画2025 取組み状況：スケジュール進捗①



《当初スケジュール》

		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
① 既存事業の構造 転換	(1)- I 6号マシン停機	生産集約 → 6号マシン停機（22年9月末）				
	(1)- II 家庭紙マシン新設 （検討）	検討	設置	稼働予定		
	(1)- III 事業領域拡大	脱プラ需要など紙の新規利用の拡大 → パルプ増産 販売強化				
	(2) 関係会社収益力強化	営業権譲受開始・文具事業整理協議開始				

《現スケジュール》

		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
① 既存事業の構造転換	(1)-Ⅰ 6号マシン停機	 生産集約  6号マシン停機（22年9月末）				
	(1)-Ⅱ 家庭紙マシン新設	 設備導入決定  設置  稼働（23年12月予定）				
	(1)-Ⅲ 事業領域拡大	 脱プラ需要など紙の新規利用の拡大 ●2021年度：紙パルプ拡大領域4%増(2020年度比)  パルプ増産 販売強化				
	(2) 関係会社収益力強化	 営業権譲受完了・文具事業整理協議中				



中期経営計画2025 取組み状況：スケジュール進捗②



《当初スケジュール》

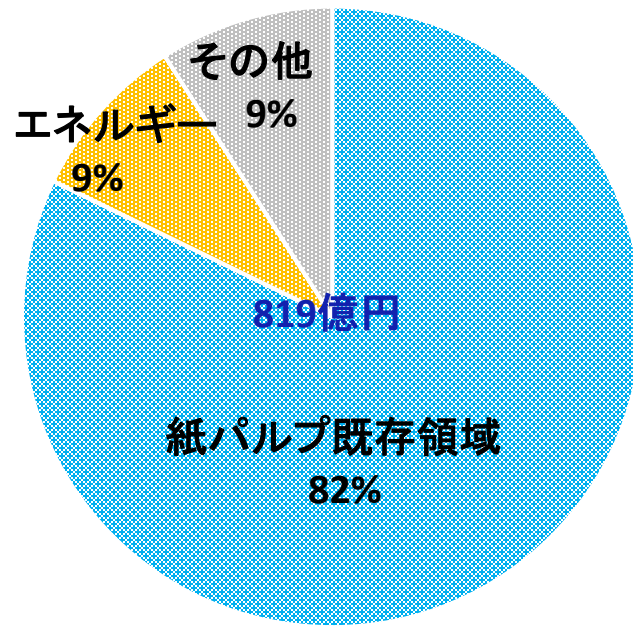
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
②森林資源を活用した環境 投資・環境ビジネス推進	I CNF実用化・開発加速	nanoforestの新たな分野への利用拡大				高機能CNFパイロットプラント稼働
	II 中越エコプロダクツ		中越エコプロダクツ製造設備稼働予定			
	III 木質バイオマス発電(検討)	検討		設置		稼働予定
	IV 既存ボイラー脱石炭		検討・計画			
	V 植林事業(検討)		検討・計画			

《現スケジュール》

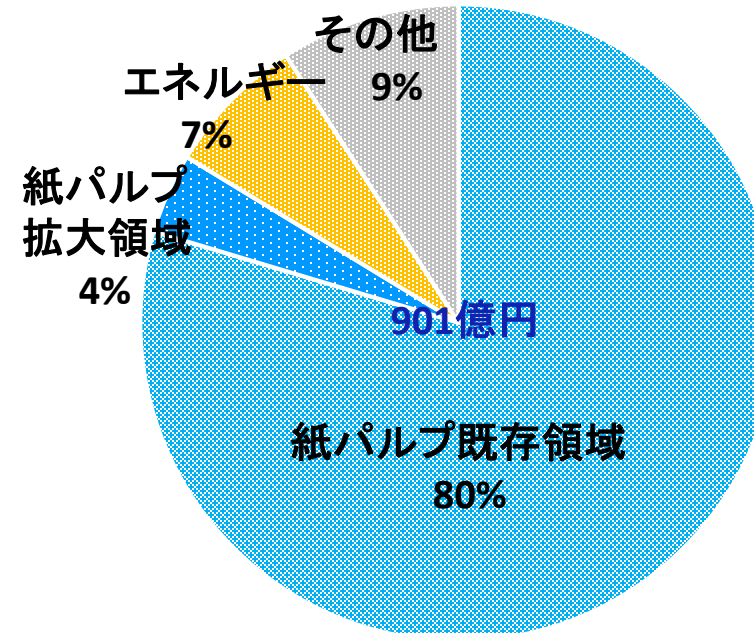
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
②森林資源を活用した環境 投資・環境ビジネス推進	I CNF実用化・開発加速	高機能CNFパイロットプラント稼働 nanoforestの新たな分野への利用拡大 ●2021年度：鶏舎環境改良資材発売・ボディウォッシュ,ミルクへの採用				
	II 中越エコプロダクツ	中越エコプロダクツ製造設備稼働予定				
	III 木質バイオマス発電(検討)	検討		設置	稼働予定	
	IV 既存ボイラー脱石炭	削減取り組み中 ●2021年度：11%削減(2019年度比)				
	V 植林事業(検討)	2030年度までに1,000haの植林を検討中				



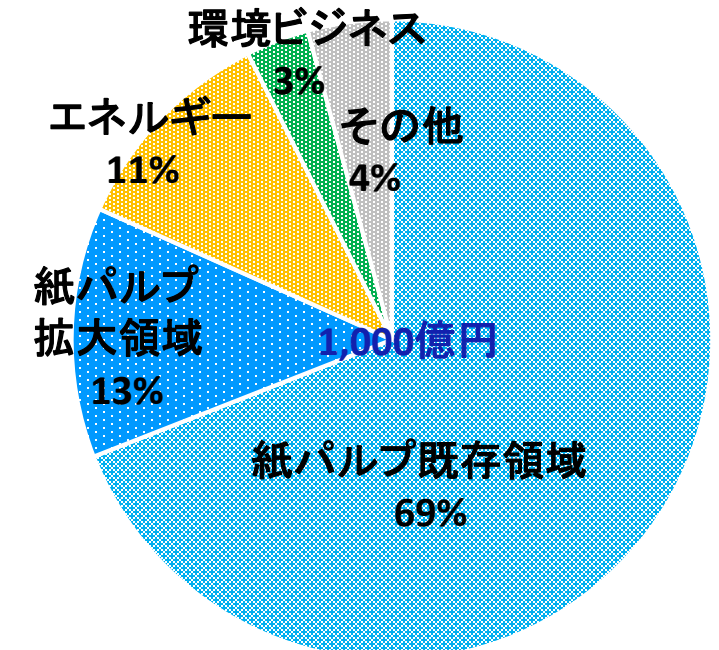
中期経営計画2025 取組み状況：事業ポートフォリオ(売上高構成)



2020年度実績



2021年度実績



2025年度見通し

- ・ 2021年度は製品パルプの増産及び新規脱プラ需要の取り込みなどによる増産により、新たに4%の紙パルプ事業領域の拡大となりました。2022年度以降は、印刷用紙マシンの停機及び、2023年度に予定している家庭紙マシンの新規稼働により、さらなる紙パルプ事業領域の拡大を図ります。
- ・ エネルギー事業は総売上高の拡大等の影響により、▲2%となりました。今後は新たなバイオマス発電設備導入の検討を継続してまいります。



nanoforest実用化、高機能CNF研究開発の加速（②-I）

新規分野への nanoforest 展開

・鶏舎環境改善資材として、nanoforest-S【ファーム】の販売開始

2021年11月から、“nanoforest-S”を養鶏分野に展開。
鶏舎の諸環境を改善させる資材として販売を開始し、
養鶏農場への普及を目指す。

・化粧品への利用

2021年11月、“nanoforest-S(高解繊品)”が化粧品に採用。

nanoforest(高解繊品)の利点

- ・自然由来原料
- ・100%国産竹を使用
- ・乳化特性(両親媒性)
- ・瑞々しい触感





nanoforest実用化、高機能CNF研究開発の加速（②-I）

高機能CNFパイロットプラント建設

従来から製造販売している

- ・nanoforest-S(水分散) CNFのスラリー品
- ・nanoforest-PDP(粉体) 樹脂へのCNF分散性を改善したもの
- ・nanoforest-MB(ペレット) CNFをPP樹脂に30%分散させたもの

この3タイプに加えて、次の3種を製造するため「高機能CNFパイロットプラント」を建設する。

nanoforest-S (高解繊CNF)

従来品よりも解繊を進め、より高機能性製品への適応性を向上させたCNF



スラリー品

nanoforest-M (疎水化CNF)

通常では混ざり難い有機溶剤やオイルなどへの分散性を向上させたCNF



化粧品用オイルに分散した状態のnanoforest-M

nanoforest-CMB (CNF成形体)

「nanoforest-S」を脱水乾燥させた軽量高強度な固形状の成形体

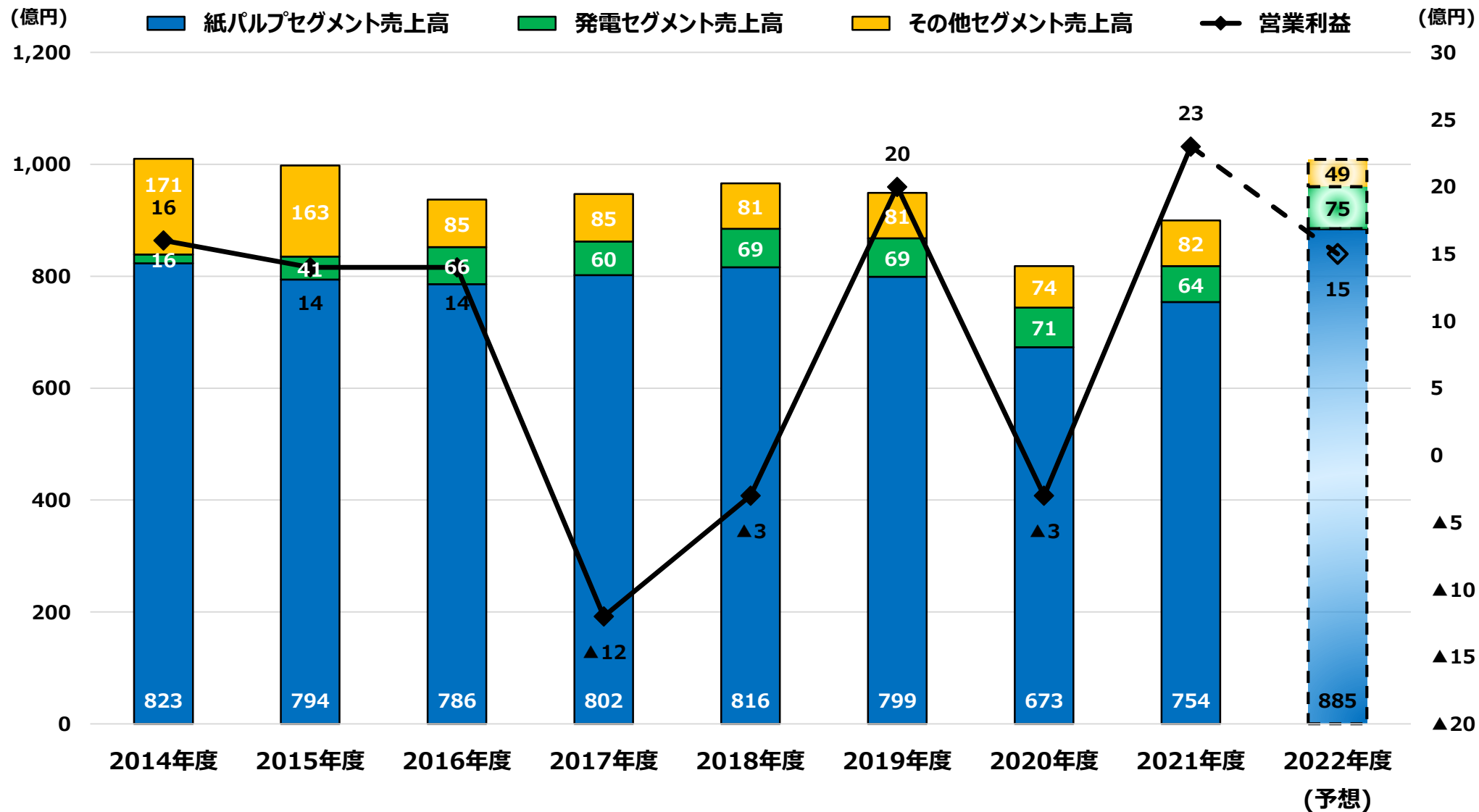


CNF100%成形体

2022年春から設備検証テストを開始し、現在各設備の調整運転中。安定後、高機能CNFのサンプル販売を拡充し、幅広い分野への利用拡大を図る。また、サンプル販売のフィードバックをパイロットプラント設計に反映させていく。

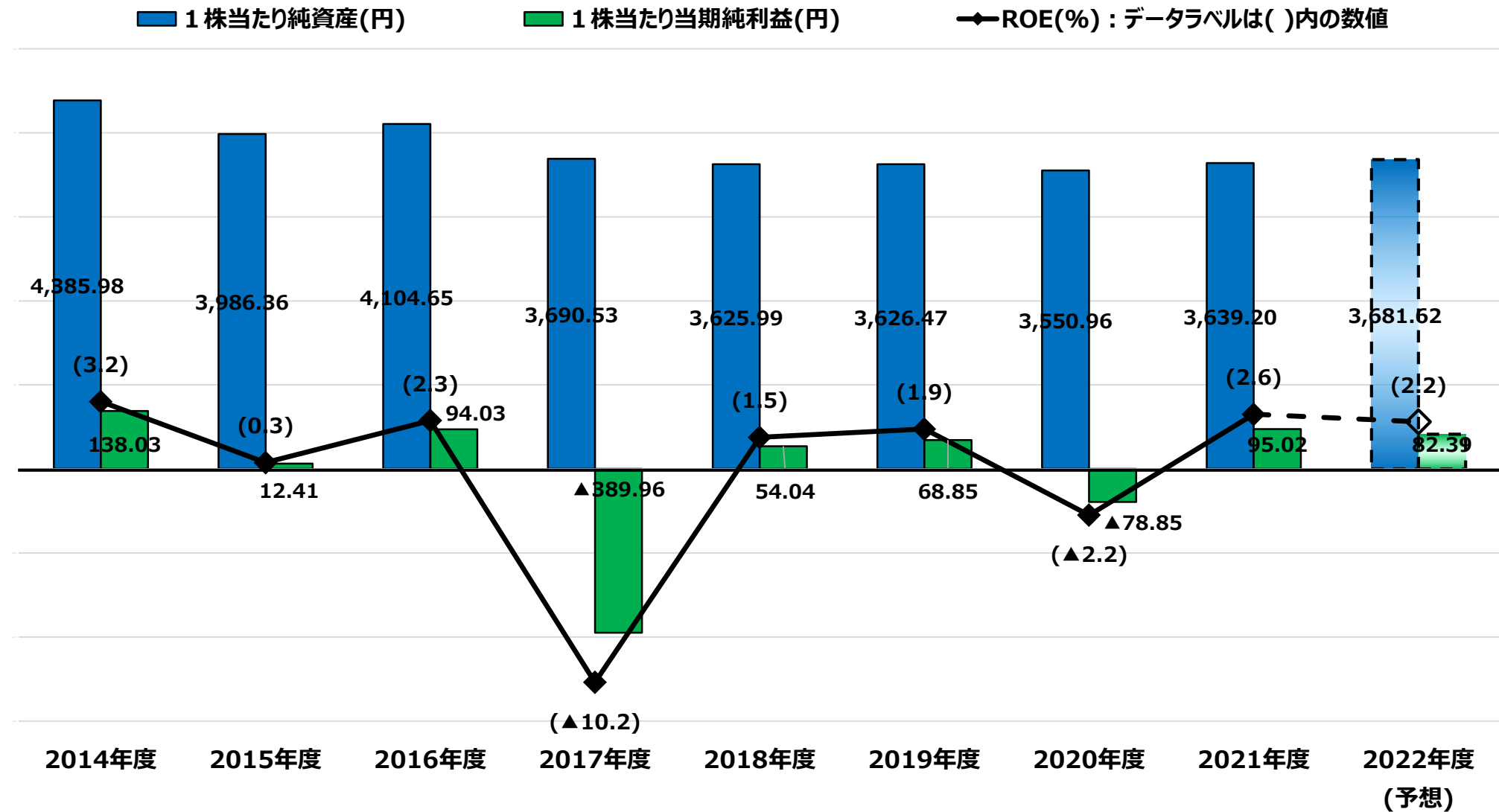


《参考資料》連結業績推移



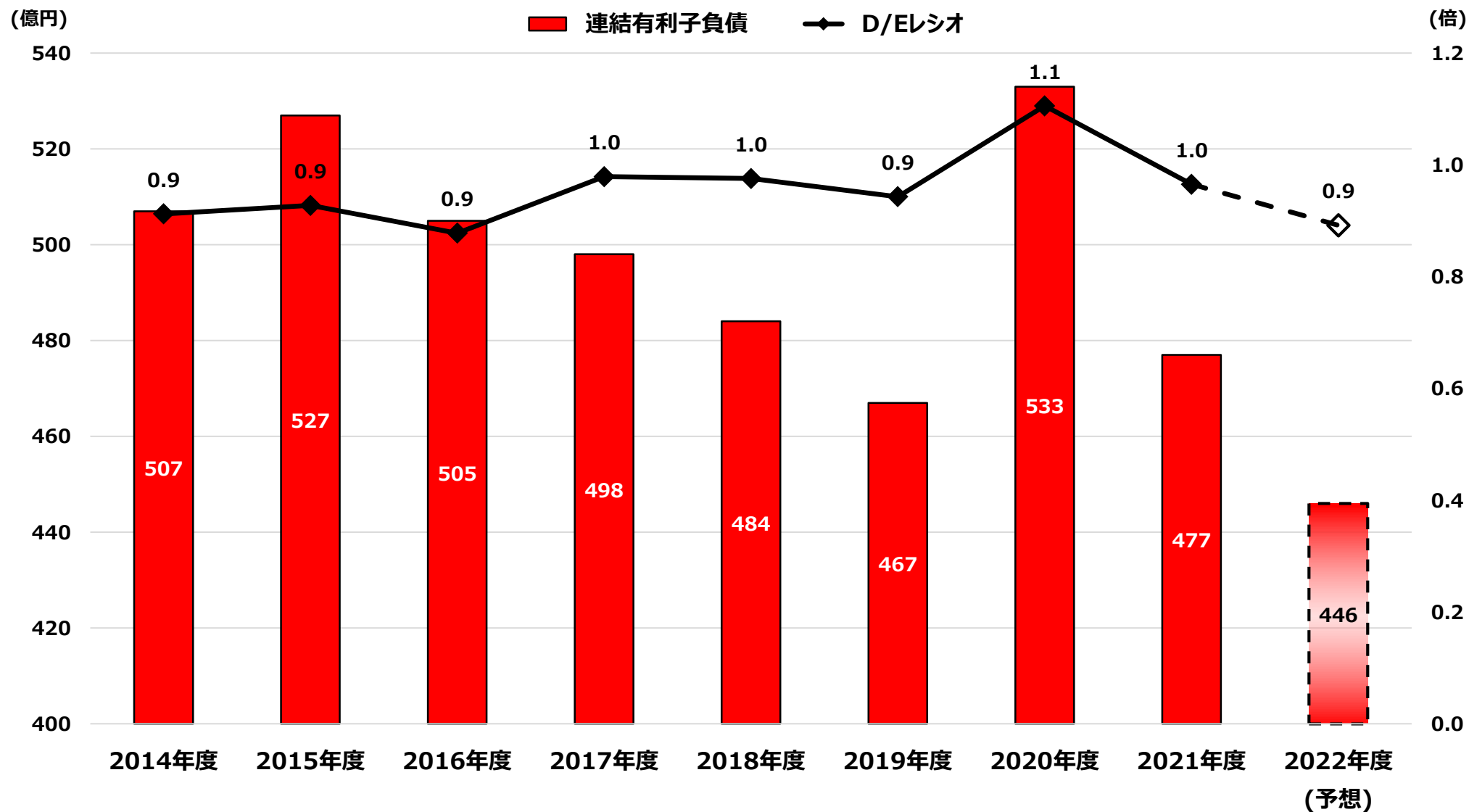


《参考資料》連結自己資本利益率(R O E)推移



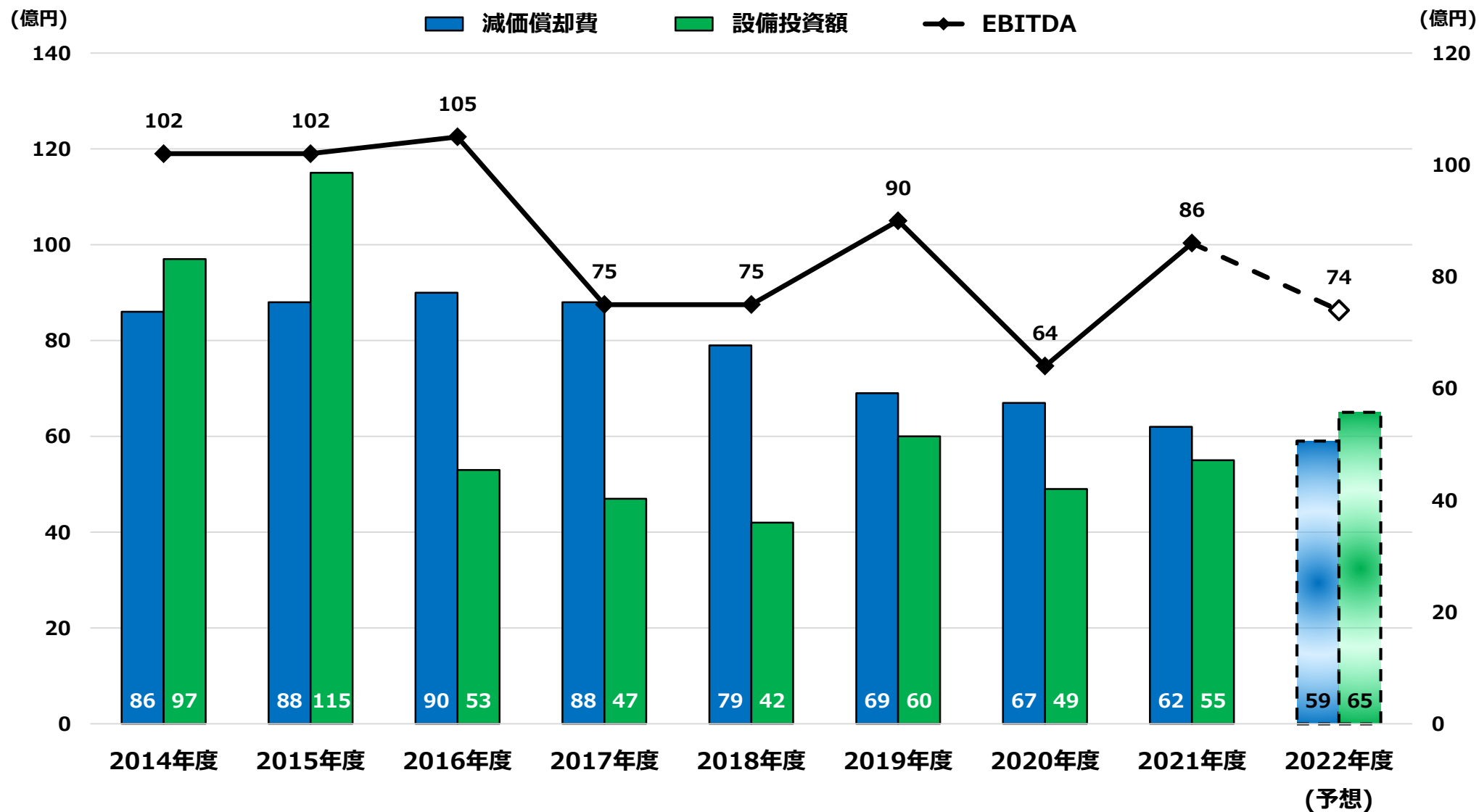


《参考資料》連結有利子負債残高推移





《参考資料》連結設備投資・減価償却費推移





《参考資料》原燃料価格推移(対2009年度比較)

